

9 4 小屋作業報告

小屋作業CL 正善 久裕

大がかりなBH修復作業も、今年で3回目となりました。実に私達が丁度入学した年から始まったわけですが、今でも鮮明に思い出せるくあの>BHの姿は、今となってはもう昔のものとなっていました。(くあの>とは、屋根を通して空が見え、抜けた床から草が茂っていた状態)

おおまかな作業自体は、一昨年の屋根の張り替え、昨年の床の張り替えをもってほぼ終了していたわけで、今回は懸念の雨漏りの修復を中心に作業をすすめました。2パーティーぐらいで一泊二日もあれば十分こなせる作業でしたが、OBの方々より「月見の宴」をBHでやりたいとの要望を受けたまわりまして、それなら全員で行ってしまおうとなり、今回の小屋作業の計画を練りました。

連絡不行届きで、昨年同様ボートを渇水期に出さしてしまうなど、不安なスタートをきりましたが、準備面ではいろいろな人達が手伝ってくれたおかげで順調に進みました。

9月21日より入山。昨年のように日をずらし入山することは、今回は一斉下山のため不公平が生じてしまう。都合のあるものだけが翌日Dパーティーとして入山することとし、あとのA、B、Cの3パーティーと一緒に入山した。その中でも特にAパーティーには、後から来る者達のために夜明け(AM4:00)から入山してもらい、草刈りをやってもらった。

正午にはボートが舟着場(テン場から随分と離れていた)に到着し、資材の運搬を始める。BHの横の愁心碑を修復するということで、40kgのセメント3袋をそれぞれザックに入れ、交替で担いだことが印象深い。

小屋の雨漏り修理、その他にとりかかったのは午後2時くらいからであった。屋根のてっぺんのトタン3枚をきれいに剥がし、梁と屋根板

の隙間にボンド状のシーリング材をながしこむ。簡単な作業で3時間くらいですんだ。

翌23日は、セメントに混ぜる砂利をバケツに4、5杯頼まれていたので、朝から拾い始めた。正午に先発隊のOBの方々が到着され、我々も一緒に愁心碑を作る。その後は「月見の宴」に向け準備にかかった。

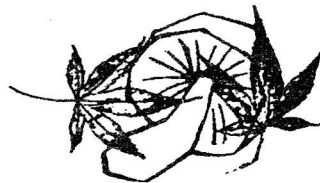
<今後の課題>

おそらく課題と呼べるものは、今回をもって終了したと思われる。次の2回生の判断であるが、来年は部員全員で小屋作業にあたる必要はないと思う。壁を塗り直したり、ドアを替えてみたりなど、上を望めばきりがなく、私個人の意見ではこれで十分と思う。しいて挙げれば、以下の項目ぐらいである。

*今回BHの近くの水場の正確な位置をOBの方に教えていただいた。BHまで水をホース等で引いてくるのが可能なら、やってみるべきかもしれない。

*入口から入って左側の窓の上の板が大きく欠けているので、その修復。

ただ、知ってのとおり、BHの周りは草が多く、湿気が高い。せっかく修復してもこのままだとよくないだろう。私としては、年2、3回の周りの草刈りぐらいはやるべきだと思われる。



夏合宿感想 (現役紹介)



北海道パーティー

牧原 弘明 (3回生 渉外 理 北海道)
メンバーに恵まれ、とても楽しかった。

小林 俊夫 (3回生 装備 工 群馬県)
平和な山行だった。この感動を大好きなあの娘に分けてあげたい。
(コバヤシ君、これでは去年の感想と同じではないか…シンボないノオ。それとも、「娘」が違うんでショカ…。 文責 舟田)

宮本 浩二 (3回生 P審議長 理 富山県)
沢の水の誘惑に負けたボク。楽しい後輩に恵まれた合宿だったかな。

吉原 正敏 (3回生 L審議長 理 石川県)
北海道の風景はすべてが広大だった。

老田 浩章 (2回生 文 石川県)
北海道の山は本州と違い、広大な感じがして最高だった。

川本 幸代 (2回生 教育 岐阜県)
4日間という短い期間だったが、充実した山行でした。

上田 穰 (1回生 工 京都府)
リーダーがむかついたので、おもしろくなかった。(ウソです。ごめんなさい)

小川 利枝 (1回生 経済 石川県)
サブリーダーもいやだった。あとは上と同じ。

北アルプスパーティー

正善 久裕 (3回生 副将・会計 経済 大阪府)
どうしても一つにまとまらず、何度もくじけた。

橋本 征治 (3回生 3M議長 理 三重県)
みんなとても疲れていたが、オレがいたおかげで楽しかったようだ。

浅野 嘉之 (3回生 L会副議長 理 三重県)
1、2年生はとても満足していたし、私自身とてもよい山行ができた。素晴らしい最後の夏合宿でした。

小西 陽介 (2回生 文 茨城県)
今年の夏は冬の山のように真っ白だった。

後藤 秀明 (2回生 文 茨城県)
3日目くらいで下界が恋しくなった。

掛布 真司 (1回生 工 岐阜県)
SLのおかげで、楽しかったはずの山行が…。

中野 貴巳子 (1回生 文 石川県)
もう少し景色があるとよかった。

村井 京子 (1回生 教育 石川県)
いい先輩ばかりでよかった…なんてネ。



南アルプス北部パーティー

友野 克利 (3回生 医療 文 静岡県)

天候に恵まれ、とても気持ちの良い山行ができました。

金吉 史哉 (3回生 BH 理 広島県)

本日は晴天なり、本日も晴天なり。

西馬 由岳 (3回生 BH 工 兵庫県)

平3 (L、SLでないヒラの3回生) で楽しかった。

阪本 京子 (2回生 文 群馬県)

さわやかに山に登ることができて、思い出に残る夏合宿でした。

西田 秀輝 (2回生 文 石川県)

洒落にならないオチをつけてしまったが、すごくいいステキな山行でした。

ミリアム・グリーン (2回生 文 アイルランド)

景色の素晴らしさ、天気ノ良さ、今マデ一番最高ノ山行ダッタ。

加藤 竜将 (1回生 法 三重県)

天気もよく、ヒゲも伸び、鳥やトンボも楽しげだった。

山崎 茂雄 (1回生 経済 群馬県)

3000m級の山に登れてよかった。

南アルプス深南部

パーティー

佐川 貴久 (3回生 主将 文 栃木県)

何事もなく平和に終わってよかった。

宇根 悟史 (3回生 L会議長 工 大阪府)

ヤブがうすく、ある意味で拍子抜けしたけれど、おもしろい山行でした。

高石 拓男 (3回生 トレーナー 経済 新潟)

楽しくてよかった。

三浦 永士 (3回生 P審副議長 法 愛知県)

鹿の平でこの世の極楽を見た。

岩倉 里英子 (2回生 工 富山県)

道がないとはなんと心細い事なのでしょう。

小泉 誠司 (2回生 理 広島県)

なんか甘ったるい山行だった。

黒須 美代子 (1回生 教育 栃木県)

ヤブの合間はさわやかでした。

高岩 伸行 (1回生 理 栃木県)

いい思い出になった。

前川 昌宏 (1回生 工 福井県)

晴れたのでよかったなあ。

行事報告

(95年夏合宿以降)

*雨飾山ワンデイハイク 10/14-10/15

小谷温泉 二雨飾山

L小西 SL西田 小林 吉原 小泉 小川

*95年度小屋作業及び月見の宴 10/23-10/24

CL正善 (4回生3人 3回生12人 2回生6人
1回生6人)

前田顧問 OB36人

*カヌーワンデイハイク 10/28

庄川

L金吉 SL吉原 西田 後藤 黒須



OB会会計報告

(平成 7年 7月 1日～平成 7年11月30日)

会計 23期 鳥越

《 収 入 の 部 》

OB会費納入	486,000
寄付、カンパ等	20,000
預金利息	666
計	506,666

《 支 出 の 部 》

OB会報(やまざと) No.3制作費	121,939
〃 郵送料	110,390
東海ワングル会活動費兼御祝い	30,000
〃 参加費(役員3名分)	76,992
平成7年度小屋作業援助金(明細別紙)	50,000
月見の宴援助金(明細別紙)	69,876
OB・現役(3年)懇親会	142,900
15期横井さん香典	10,000
その他諸雑費	6,353
計	618,450

《 差 引 剰 余 金 》

前回(7.6.30現在)繰越金	2,120,302
収 入 の 部	506,666
支 出 の 部	618,450
差 引 合 計	2,008,518



以 上

事務局より

上記残高中、相当額が今回のBH誌発行補助に支出される予定です。
会費未納の方は、下記郵便振替口座へ納入、ご協力をお願いします。

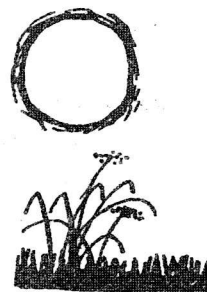
00780-3-14120 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

(別紙)

7年度ベルクハイム修理作業、月見の宴会会計報告

《収入の部》

7年度小屋作業援助金	50,000
月見の宴参加費(35名)	105,000
〃 寄付等	30,000
計	185,000



《支出の部》

月見の宴食費、酒代	116,877
〃 連絡費	15,826
〃 献花代	3,800
ベルクハイム修理費、記念碑材料費	32,870
現役作業費、食費、交通費	40,000
現役慰労費	20,253
その他諸雑費	25,250
計	254,876

《差引不足金》

収入の部	185,000
支出の部	254,876
差引合計	<u>△ 69,876</u>

※差引不足金△69,876円はOB会会計より援助金として支出しました。

以上

事務局より

今回の行事は、月見の宴、慰心碑補修、BH修理を同時に行っており、会計も一括処理を行いました。当日会費は飲食費相当で設定し、他は全OBにもご協力いただいたという解釈で、OB会会計からの支出で補うことにしました。ご了承下さい。

月見の宴では、お酒・おつまみ・金封と、多数の差し入れを頂戴し、心豊かな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

ページ打ちを終え、最後の編集後記を打っていたら、「遅くなりましたが」と中村さんからの電話。近くの親戚のファックスへ流してもらい、原稿を入手できました。

15期同期会の折り、上馬さんに便乗させてもらい、「20期中村さんという人」に原稿を頼んだ話をしました。すると、彼は同じ生物科の後輩であること、一緒にイヌワシの調査などで山へ行ったりしたこと。実は彼からの依頼で四日後に加賀市へ講演に行くことになっていること（ああ、なんだ人脈つながってたんだ。同じ県内にいながら、知らないばかりにもったいな

いことしてるなあ）。そして、これは普通疑問に思うし、原稿には書かれていないので補足すれば（さしつかえがあるとは思えないので）、高校時代から交際していた女性と結婚し、彼女の祖父の窯を継いだこと。いろいろな作品を焼いているが、生物科出身らしく鳥のモチーフ等も多いこと…等を聞きました。

ワンゲルOBは控え目な方ばかりで、自主的に原稿を下さる方は皆無。楠屋先輩みたいに私も耳をダンボにして、書く種のありそうなOBを探していますが…ある日、あなたにも「原稿ちょーだーい」のコールが…。

「陶芸家・中村元風とは ワンゲルの土屋のことです。」

20期 中村 元風

ワンゲル20期土屋正登といえは、近い期の人
は思い出していただけるかもしれません。それが過去の私です。

日本工芸会正会員・九谷焼陶芸家中村元風（
がんふう）というのが現在の私です。結婚して
中村姓になり、陶芸家としての雅号を元風とし
た為に、全く別人のようになってしまいました。

この度、思いもかけず舟田さんより電話があ
り、

「トイップ大賞おめでとうございます。つきま
してはご活躍の様子を書いてもらえませんか」
との御依頼があり、それではまあ、名前がすっ
かり変わっていることの紹介も兼ねて、何か書
いてみようかと思いたった訳です。

さて、トイップ大賞の説明から始めます。ト
イップ大賞というのは、日本青年会議所が将来
を期待できる傑出した若者を表彰するというも
ので、石川県で毎年5人位の人にあげている賞
です。私が傑出しているかどうかは別にして、
「夏子の酒」や「妹よ」を書いた水橋文江さん

らと一緒に今年この賞をいただきました。大変
名誉なことだと思っています。

私には陶芸の仕事をしていく上で、自分の住
んでいる地域と、九谷焼業界があつての仕事だ
という意識があります。それで、地域と業界の
為になる活動として、モレシャン塾（フランソ
ワーズ＝モレシャンが加賀市でアトリエを持つ
ことに協力し、始まった）や、ギャラリー元（
東京大丸百貨店で九谷焼等を紹介する展示ス
ペース）の運営をしてきました。

また、本業の面では、古九谷を今に再現する
という、非常に難しい仕事に挑戦しており、ト
イップ大賞選考委員の中に、その仕事を高く評
価されている方がいらしゃったとのことでした。

それらのことを複合して、たくさんの陶芸家
の方がいらっしゃる中、陶芸家として初めての
受賞となったのだと思います。



次に私の仕事を紹介します。私は陶芸家として、ロクロも回し、上絵付もするという、何から何まで一人でやるというスタイルで仕事をしています。

仕事の内容は大きく二つに分かれています。一つは、古九谷の写しや古九谷からヒントを得た、小皿、大皿、酒器、花器など絵付された磁器を造る仕事です。私はこれらの仕事を今九谷と呼んでいます。九谷焼はそもそも装飾品を作ることが伝統なのですが、私は「使う」ということも考慮に入れて、飾ってもいいし、使ってもいい、というようなものを造っています。

もう一つの仕事は、「自己表現」といっているのですが、人がどう思うということを考えず、自分の造りたいものを造っているという作品づくりです。

二つの仕事共自分にとっては大切な仕事で、どちらがどうってことはありません。

作品の発表は、日本伝統工芸展と、年に2、3回開く個展が中心です。日本伝統工芸展といっても馴染みのない方も多いと思いますので、説明しますと、文化庁主催の日本で唯一の工芸展で、この展覧会で偉くなると、人間国宝になるといった展覧会です。少々俗っぽい説明ですが、その方がわかりよいかと思います。

仕事の説明をするときりがないので、この辺で止めます。今後私は、全国のデパート等で、個展をする機会が多くなると思います。もし、「中村 元風作陶展」のようなものを見掛けたら、「私」ですので、是非覗いてみて下さい。石川県では、多分来年初めての個展をする事になると思います。

九谷焼では、金沢美大出身の陶芸家がほとんどの中、「金沢大学出身」で頑張っているもので、是非よろしくお願いします。



中村元風さん



1995[ISHIKAWA]
TOYP大賞

金沢 人物往来 交差点 HUMAN CRAMBLE



ZOOM
今週の若者たち
UP!

様々な分野で活躍する
石川の若者たちを表彰

TOYP大賞受賞者 中村元風さん、濱田奈美さん、水橋文美江さん、二本大一さん、米林裕崇さん

(社)日本青年会議所石川支部協議会が主催する「1995 ISHIKAWA TOYP大賞」の表彰式が去る9月2日(土)、金沢日空ホテルにて行われた。TOYP(The Outstanding Young Persons)の略とは「傑出した若者たち」の意味。今回も夢とロマンを持った活発な活動により社会に大きな貢献を果たしている石川県出身の若者5名が選出された。ここでは受賞者とその活動内容とともに紹介している。

中村元風さん(40) 九谷焼陶芸作家で加賀市在住の中村さんはフリードピアの食事を同市で開催するために尽力した。またその際知り合ったフラソワーズ・モレンヤンさんを招いて「モレンヤン熱」を開催した。

濱田奈美さん(32) オペラ歌手の濱田さんは「マダム・バタフライ」の蝶々夫人役などをヨーロッパ各地で好演。また石川県内各地での公演活動も行っている。

二本大一さん(39) 美川町在住の二本さんは、町を流れる手取川の清浄と川に親しむ活動「手取クリーンカーニバル」の実行委員長として活躍中。平成5年には約4000人の参加者を集め、2トトラック14台分のゴミを回収した。

水橋文美江さん(21) 高校卒業後上京した水橋さんは劇団「まるまる行進曲」を主宰。その後平成3年には脚本家としてデビューし、「夏子の酒」三妹など全国放送の人気ドラマのシナリオを手掛けている。

またしても「いじっかしい」言い訳つきで、ご披露します。この原稿は、中川氏に印刷原稿を送り、他の「配下」の皆様にもその後の一連の連絡事項を指示した後に到着しました。慌てて中川氏に訊ねてみると、印刷機もろもろの都合で数日後にとりかかる予定とのこと。それで掲載に間に合いました。

原稿を読んでびっくり…。そもそも、35周年記念の前の趣意書に同封するOB会名簿作成の折、各期代表に同期名簿の送付をお願いしました。その際の

「同期に山を続けている人はいませんか？」の問いに対し、18期椿川さんからの返事には「田辺がヒマラヤに行っています」との一行が添えられていました。それを今頃思ひだし、

「原稿ちょーだーい」をやったものなのです。トレッキング、プラスの程度の話のように私は思っていました。p 4に「余りに雪や岩といった先鋭的な山行をする人は、かえって山から離れてしまう…」どころか、8000m! いやー、知らないということは、オソロシイ…。

これはもっとあれこれ聞いてみなくちゃと、黒部市民病院へ電話をかけると

「田辺先生は今オベ中です。夜中までかかります。」

そんなら、同期の松林氏へ…。

「また事故かぁ？」

「ううん、これこれしかじか。そんな遠征なら新聞に出ていたはずと思う。調べてみて」

「うーん、北国新聞ならデータベースで直ぐ調べられるけど、富山みたいな地方紙だと倉庫に一部残してあるだけだぞ。もしかして北日本かなあ。ほやけど、どっかの新聞社とか、テレビ局が後援していれば、紙面にはでんぞ。」

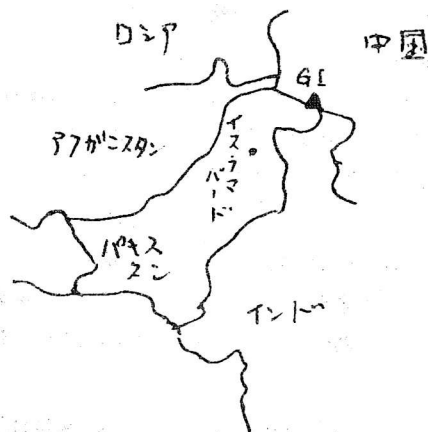
編集長は、お手数をかけることに恐縮する一方で、そんな次元のことで「事実」は消えてしまうんか!? 報道の使命ってなんや! と憤るのでありました(松林氏の落度ではありません)。

結局、北国、富山には出ていなかったそうです。続きは次回のお楽しみに…。

富山岳連 '94

ガッシャーブルム【峰遠征】

18期 田辺 隆一



富山岳連では、'83年ナンガパルバット、'88年ブロードピークに続いて、'94年三つ目の8000m峰に遠征隊を送ることになった。いずれもチベットパキスタン国境の山で、カラコルム山脈の一部である。ブロードピーク同様、世界最大級のバルトロ氷河を遡り、BCに入ることになる。

6月17日、イスラマバード着。日中は47度にもなるが、湿度は高くないので、日本よりは過ごし易い気がする。買い出しやブリーフィングも終え、20日、エアコン付バスで、カラコルムとヒマラヤの玄関口、スカルドへ向かう。途中のカラコルムハイウェイはガードもなく、スリル満点。ここで最後の準備を終え、24日、ジープ7台に隊員13名と隊荷3トンを積み、アスコーレへ向かう。スカルド=アスコーレ間は、以前は徒歩で4日間かかったとのことで、楽にはなったのだろうが、日本人的感覚からすれば、道路とは呼べない代物である。

26日、いよいよキャラバン開始。ルートが整備されたとはいえ、午前も早いうちに行動しなければ、そこかしこから氷解け水が湧いてきて、渡渉を余儀無くされる。標高3000mのアスコーレから、5100mのBCまで約100kmのうち、初

めの二日間のみ土の上で、後は凸凹の氷河上を、強烈な日差しと、乾燥と、低酸素に苦しめられながら突き進むこと8日でBCに達する。途中コンコルディアからは、K2、ブロードピーク、etc etc ……。

7月6日以降、次々に、アメリカ、スペイン、ボスニア、イタリア等の隊も入山し、一大テント村が出現した。C1 (5900m) までは、巨大なセラックやクレバスが多数あり、非常に危険で、ヒドンクレバスに転落した隊員もいた。日に日にクレバスが口を開けていくため、ルート変更もしばしば。こんな場所を、外国隊は涼しい夜間に行動している。

C2 (6400m) までは雪原で特に危険はない。C2のすぐ上の稜線は中国国境だ。

いよいよ未踏ルートに取り付き岸壁にルートを伸ばすが、岩が脆く支点がとれず、また、懸垂氷河の崩壊が激しく、未踏ルートにこだわるか、通常ルートに変更して登頂を最優先にするか、の選択を迫られた。

BC撤収は8月15日、あと10日しかない。後から来た外国隊が、通常ルートから続々と登頂を果たしている中、ルートを変更して、C3 (

7400m) より登頂に賭けることになる。

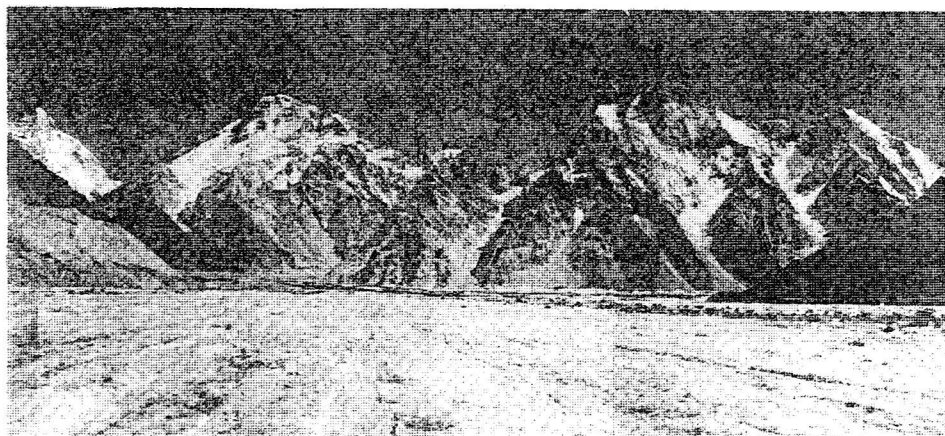
9日C3に3名入るも、猛吹雪のため食料燃料とも欠乏。12日快晴。頂上直下70度の氷壁を乗り越えて3名ともに頂上に立つ。C3に帰るまでに15時間行動。C2からは往復17時間で物資が届けられた。

二日間で上部キャンプを撤収し、15日のみ休養兼梱包。

帰りのキャラバンは通常ルートであるが、出水で途中の籠の渡しが壊れたとの情報があり、ゴンドゴロ峠を通り近道することになった。峠といってもただの鞍部でも5500mあり、吹雪の中、氷河上に行くのは背筋が寒かった。

4日でスカルド着。杏の実がうまい。畑には小麦が実り、2ヶ月の時の流れを感じる。

11年の間をおいてのパキスタンであった。一部の都市は日本などとほとんど変わらないが、やはりスラムも現存し、田舎へ行けば未だ電気のない自給自足の生活である。しかし人々の顔は明るく、日本人が忘れてしまった心をしっかりと持ち続けて生活していた。そして山々は高く、人間なぞ我関せずとばかり聳え立っていた。



左からK2、ブロードピーク、ガッシャブルム

編集後記

「このあいだの会報に書いてあったでしょうが！」

「一節ちゃんのは長うて…読まれへん」

書かなければ伝わらず、書いても読まれず…私はどうすればよいのでしょうか？

もちろんこの非情なK.U.氏は編集長の報復を受け、「読まれへん」かもしれない原稿を書くはめになりました。

いつから無関心は美德の一種になったのか…「老兵は語らず、ただ去り行くのみ」は戦後の急激な変化についていけない者にとって格好のコピーとなりました。しかし、オウムのようなものを蔓延らせる土壌ともなったのではないのでしょうか。

「現役時代」はあるけれど「現役」という人はいない…。うぶな新入生が、自信とニヒルを漂わせた三回生になり、「私もとうとうOBになってしまいました。」と頭をかく姿を何人も見てきました。私が今もワングルに魅かれるのは、それが「人」を育てるクラブだからです。

「先達はあらまほしきものなり」と兼好法師も語りました。示すべきは示し、語るべきは語り…それをどう受けるかは本人次第なのであって、先に生まれた者は伝える労を惜しんではいけないと思います。

言葉を使い、文字を使うことで人類は進歩を手に入れたというのに、インターネットで世界とつながるという時に、仕方がないとあきらめ、疎遠を良しとすることが私にはできません。OBにはOBの経験、小遣いから繰り回せるお金があり、現役には、組織と時間があります。お互いの立場なりの得手を生かして交流してみれば…。OBになってからでは影響を受ける余地は少なく、現役時代こそが、情報を生かし、考えられるチャンスではないか？現役時代に一度もOB会と交流したことがない人が、卒業し社会にもまれてワングルが一番遠くなった時に、さあこれから親睦しましょうと会報が送りつけられ、年会費を請求されたら…どんな気持ちになってしまうのか。…オソロシイ。

そういいながら、40周年を共催してくれる「筈」の現役達は、まだ金大生にもなっていない。現役（現役時代にいる人）との交流といっても、毎度砂上の楼閣…。

そんな現実と夢をしっかりと見据えて…五年の任期の後半戦に入ります。

(編集長 舟田 節子)

PS 会報の原稿はいつでも募集しています。

OB会報「やまざと」 '95冬号 (4号)

発行日 平成7年12月

発行者 大島 良治

編集責任者 舟田 節子

印刷 中川 晃成

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局 金沢市橋場町10-49

☎0762-22-9288